



内館 牧子 講演会

プロフィール

現職 脚本家

ノースアジア大学 教育諮問委員

ノースアジア大学 総合研究センター 客員教授

履歴 武蔵野美術大学 卒業

東北大学大学院 文学研究科修了

NHK大河ドラマ「毛利元就」・NHK連続テレビ小説

「ひらり」・TBSドラマスペシャル「塀の中の中学校」

他多数のテレビドラマの脚本を手掛ける。

「終活をめぐるアレコレ」

開講日時▶3月22日(土) 午後1時00分～2時30分 (開場 午後12時30分)
会場▶ノースアジア大学 総合政策学部棟3階 332教場

講演内容

9月11日に、私の書き下ろし小説「迷惑な終活」が講談社から出版されました。

私は以前から「終活」って何だろうと考えることがありました。とても大切なことですから、今では五十代も始めているそうです。まだまだ死からは遠い年齢であればこそ、遺言書を作るにもエンディングノートを書くにも、延命や葬儀をどうするか等々、悲愴感を持たずにできます。そして、前もって終活しておくことで、遺族は銀行やら役所やら保険やらの繁雑な仕事も楽になります。

「終活」とは本人に死を意識させるものではなく、それをやることで安心して、かえって晴れ晴れと生きられる術(すべ)だとよく言われます。

この小説の主人公は断固として終活を拒否。七十五歳の元サラリーマンですが、後期高齢者として、周囲から終活を強く勧められます。でも、彼は本当の終活とは、自分の人生に自分でケリをつけることだと宣言。やり残したことをやってケリをつける。それこそ、動けるうちにやっておくべき本来の終活だと動き始めます。

終活をめぐる夫婦、友人、子供たちの笑える本音、そんな新作小説について、お話ししたいと思います。